

## 1 取組名称

科学技術プレゼン力向上プログラムーStep UP Programー

## 2 取組組織等

都市環境学部（都市基盤環境学科、地理環境学科、環境応用化学科、観光科学科、建築学科、都市政策科学科）

## 3 取組実施代表者名

都市環境学部都市基盤環境学科 教授 横山 勝英

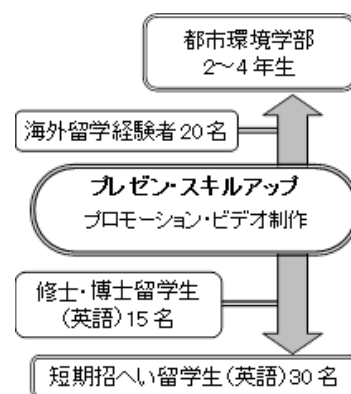
## 4 取組年度期間

2018～2019 年度（2年間）

## 5 取組の概要

本学における教育の国際化は重要なトピックの一つである。約7割の学生が留学に興味を持っており、主たる目的は国際的視野を広げることと語学力の修得となっているが、大半の学生が実行に移せていない。語学力に関して言えば、学内で英語授業は重点的に実施されているものの、英語と専門の結びつきが若干弱いために、活かしたスキルとしての英語力につながっていない可能性がある。教育の国際化を推進するためには、低学年のうちから専門分野に関して国際コミュニケーションをとり、自分の専門知識や考察を英語で積極的に発信できる能力を身につけさせることが重要と言える。そのためには、正課の授業・ゼミなどとタイアップして、海外の学部生（短期招へい留学生）とディスカッションしながらプレゼンテーションを作り上げることが効果的である。

主たる取り組みは研究・授業に必要なプレゼンテーションのスキルアップである。参加者は都市環境学部の各学科の1～4年生であり、正課授業（講義、実習、ゼミ、卒業研究）とタイアップして、その中で必要とされるプレゼン・スキルを本プログラムにより向上させる。別事業によりフィリピンのTOP3大学から成績優秀者を短期招へいする。H27年度からの交流を通じて、彼らの英語力、プレゼン力、コミュニケーション力が極めて高いことが判明しており、右図の構図でプログラムを運営することで、首都大生を巻き込んでゆく。



## 6 事後評価の総合評定

3. 9 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

## 7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 取組の結果、文科省事業に採択されたこと。本学の国際化へのモデルとして一層の進展が期待されます。学生の英語コミュニケーションへの自信が付き、実際、プレゼンテーションの英語化が進んだこと。学部・全学にこれが波及することが期待されます。
- 留学生という既存の人的リソースを活用しながら本学学生のプレゼンテーション力および英語力の向上につなげるという、誰もが思い至りながらも有効に実施できてこなかった事業を成功させ、実際の成果を生み出している点が高く評価できる。また、それが最終的に国費の特別プログラムの採択にもつながっている点は特筆されるべきである。
- 対人的なコミュニケーション力としての語学力と学術研究成果公表としての語学力との関係が整理されていると、なお効果的な事業になるようにも思われる。